



明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

“コミュニティ・スクール” オープン研修会 松が丘サミット No.2

12月5日のコミュニティ・スクールオープン研修会に参加いただいた花園小の校長先生から、松が丘サミットを取り上げた校長室だよりが2通も届きましたのでご紹介させていただきます。



校長室だよりの号数が No.51 というのにまずびっくりです。花園小にはサミット前日の12月4日(水)にコミュニティ・スクールの研修会で寄せていただきましたが、校長先生ご自身が「社会に開かれた教育課程って何？」と悩まれているのが伝わってきました。

校長だよりNo.50の冒頭に、「まだまだ十分に受け止めるだけの余裕がないのは仕方がないことですが、けっして“ひとごと”にはならないでください。当事者意識をしっかりと持っていっしょにコミスクに向き合しましょう。」と書かれています。

これは校長先生ご自身がご自分に言い聞かせている言葉ではと感じます。コミュニティ・スクールは出来上がったものがあるのではなく、これから創っていくものです。そのためには学校だけの課題だけでなく、地域の課題、そして社会の課題も含めてそれぞれの立場の人が当事者意識を持ってゴールを共有する熟議から始めていただけたらと思います。

校長だよりNo.51には次のようなことを書いていただいています。
「グローバル化、ICT化が進む現代社会において、文科省、経産省がかかげる「子どもたちが今後、求められる能力」は

- 社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できる
- 多様な人々と協働していくことができる
- 新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見解決につなげていくことができる
- どんなに小さくてもいいのでチェンジを起こせる
- 身の回りのことをしっかりと疑問に思っ、解決すべき課題を発見し、解決に向けて実際に動き出して、周りも巻き込みながら、最終的にやり遂げられる

です。あらためて松が丘サミットの取り組みを見てみると、まさにこれらの能力を育てるためのものだといえます。総合や算数の時間で地域のことを調べ、グラフにまとめ、分析した上でプロジェクトを企画する。そして、それを地域の方にプレゼンし、対話し、結論をまとめ、協働していく。小学校6年生でこれだけのことができるということが私にとって衝撃でした。

この松が丘サミットは学習としては教科横断型単元としてチャレンジされたものです。Society5.0に向けての学びを考えたとき、こうした教科横断型の単元を組める力を教師自身が培っていく必要があると考えます。校内研究も、従来の研究スタイルから、これから求められる学びの仕組に目を向けていく必要があるのではと考えます。

これは教科横断型単元へのチャレンジとして6年担任が考えた「カリキュラムマップ」です。松が丘小では夏休みの期間中に各学年担任団と管理職、研究推進、そして児童生徒支援担当が集まって1学期の学年経営の振り返りを行いながら2学期以降の戦略を練る学年戦略会議を行っています。この学年戦略会議は研究推進の提案からスタートしたもので、こうした「カリキュラムマップ」が生まれてきたのは新しい時代に対応できる研究にシフトしてきている表れではと思います。(文責：北本)

(参考資料)

第6学年 カリキュラムマップ

